

# 中小企業景気動向調査

〔2013年7～9月期の景況/10～12月期の予想〕

## 【調査要項】

実施期間:2013年8月23日～9月6日

調査対象:県内の当金庫のお取引先 992社(下記参照)

調査方法:郵送および面談によるアンケート調査

分析方法:業況、売上、収益、資金繰り、人手などについて、「良い」(増加など)と答えた企業割合から「悪い」(減少など)と答えた企業割合を差し引いた値(DI:Diffusion Index)を中心に分析

	製造業	卸売業	小売業	飲食業	建設業	不動産業	運輸業	サービス業	合計
対象先数	426	129	74	32	155	41	38	97	992
回答数	375	112	60	31	141	38	31	84	872
回答率(%)	88.0	86.8	81.1	96.9	91.0	92.7	81.6	86.6	87.9



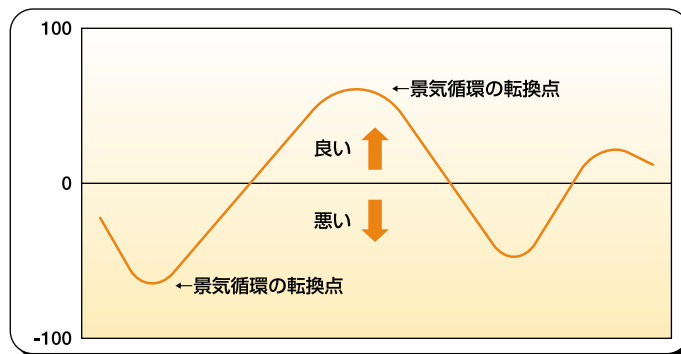
## DIの算出方法

〔業況判断DIの場合〕

業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いて求める。DIがプラスかマイナスで業況を判断するほか、前回調査(3カ月前)からどのように変化したかも重要で、景気循環の転換点を捉える視点で用いるのが望ましい。



$$45\% - 35\% = 10 (\%ポイント)$$



結果概要

7～9月期の景況

景況感が3期連続で改善。

自動車部品製造業は1年ぶりに業況判断DIがプラスに。堅調な自動車販売などが寄与。

建設業は景気回復が鮮明に。住宅建設に駆け込み需要。公共工事関係も持ち直す。

10～12月期の予想

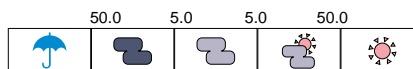
製造業の景況感、おおむね横ばいの見通し。

非製造業は改善を予想。DIがプラス浮上へ。

業種別天気図

数値は業況判断DI

業種	前期 (4～6月)	今期 (7～9月)	予想 (10～12月)	業種	前期 (4～6月)	今期 (7～9月)	予想 (10～12月)
全産業	12.2	4.6	1.6	印刷	16.7	63.6	18.2
製造業	14.1	6.7	6.6	食料品	7.7	24.0	32.0
非製造業	10.7	3.0	2.0	卸売業	21.5	3.6	2.8
自動車部品	11.1	4.6	5.7	小売業	17.7	20.0	11.7
機械器具部	17.5	11.0	1.2	飲食業	32.1	32.2	34.5
金属製品	12.8	2.7	14.3	建設業	4.5	19.7	23.6
窯業・土石	15.7	14.3	21.4	不動産業	2.9	5.4	2.8
木材・木製品	0.0	0.0	0.0	運輸業	14.3	12.9	23.4
繊維製品	4.2	14.8	14.8	サービス業	10.5	16.6	2.5



業況判断

景況感3期連続の改善 製造業・非製造業ともに改善

〔全産業〕

7～9月期の企業の景況感を表す**業況判断DI**（業況を「良い」と答えた企業の割合から「悪い」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス4.6となり、4～6月期（マイナス12.2）にくらべ7.6ポイント改善した。改善は3四半期連続。10～12月期の**予想業況判断DI**はマイナス1.6と、3.0ポイントの改善を見込む。

	前期	今期	予想	変化幅			
	〔4～6月期〕	〔7～9月期〕	〔10～12月期〕	前期	今期	今期	予想
全産業	12.2	4.6	1.6	7.6		3.0	
製造業	14.1	6.7	6.6	7.4		0.1	
非製造業	10.7	3.0	2.0	7.7		5.0	

（単位：%ポイント はマイナス）

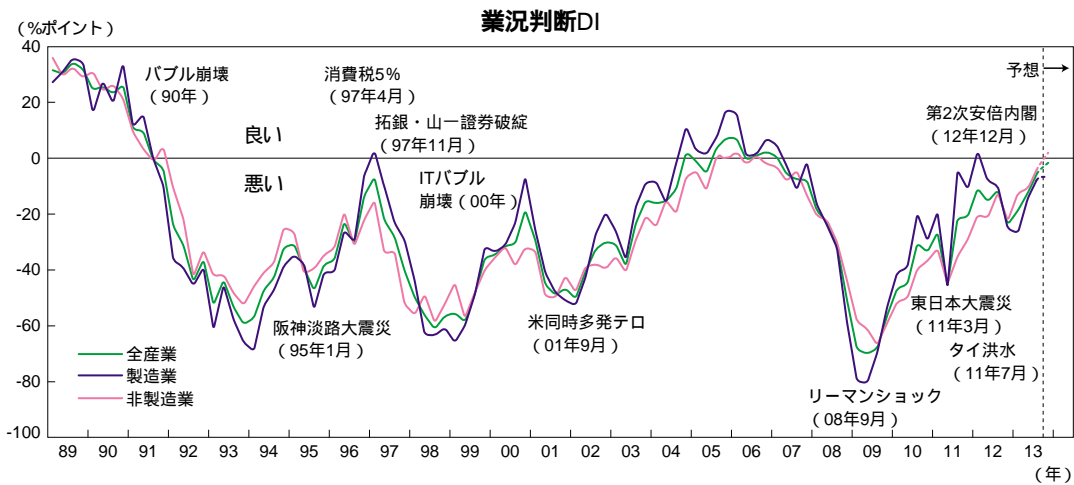
〔製造業〕

**業況判断DI**はマイナス6.7。4～6月期（マイナス14.1）にくらべ7.4ポイントの改善。改善は2四半期連続。

- ・ DIが改善したのは、自動車部品、機械器具部品、金属製品、窯業・土石。悪化したのは、繊維製品、印刷、食料品。
- ・ 自動車部品はDIが1年ぶりのプラスに。ハイブリッド車を中心に自動車販売が堅調に推移したことなどが寄与した模様。
- ・ 金属製品もDIがプラスに。およそ6年ぶり。
- ・ 食料品の一部からは「夏の酷暑が売上に響いた」という声があがっている。

**予想業況判断DI**はマイナス6.6。景況感はおおむね横ばい推移する見通し。

- ・ 機械器具部品と金属製品は引き続き改善を予想。



〔非製造業〕

**業況判断DI**はマイナス3.0。4～6月期（マイナス10.7）にくらべ7.7ポイントの改善。

- ・ DIが改善したのは、卸売業、建設業、不動産業、運輸業。悪化したのは、小売業、飲食業、サービス業。
- ・ 建設業の改善は3四半期連続。住宅建設に消費増税をにらんだ駆け込み需要がみられ、回復の遅れていた公共工事関係もここにきて持ち直している。
- ・ 不動産業はDIがプラス浮上。住宅市場の改善が続き、不動産需要は底堅く推移した模様。

**予想業況判断DI**は2.0。5.0ポイント改善し、プラスに転じる見通し。予想どおりプラスになれば、2006年7～9月期以来、約7年ぶりになる。

		7～9月期の業況		10～12月期の予想	
		改善した業種	悪化した業種	改善予想の業種	悪化予想の業種
製造業	自動車部品 機械器具部品 金属製品 窯業・土石	繊維製品 印刷 食料品	木材・木製品は横ばい	機械器具部品 金属製品 印刷	自動車部品 窯業・土石 食料品
	非製造業	卸売業 建設業 不動産業 運輸業		小売業 飲食業 サービス業	卸売業 小売業 建設業 サービス業

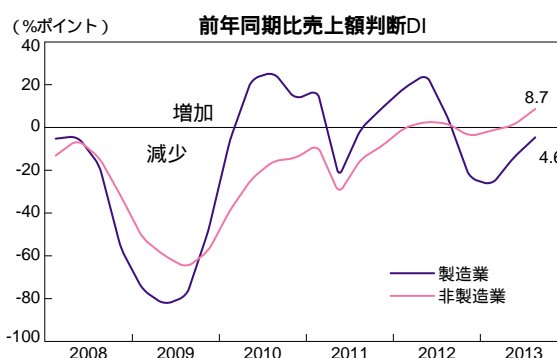
売上額・収益

全産業の売上額が上向きに 非製造業は2期連続の増収

〔全産業〕

**前年同期比売上額判断DI**（売上額が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）は3.0〔増加〕となり、増収に転じた。全産業ベースでプラスになるのは1年ぶり。

**前年同期比収益判断DI**（収益が前年同期とくらべ「増加」したと答えた企業の割合から「減少」したと答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス5.4〔減少〕。5四半期連続のマイナス。



〔製造業〕

前年同期比売上額判断DIはマイナス4.6〔減少〕。4四半期連続の減収。

前年同期比収益判断DIはマイナス10.3〔減少〕。5四半期連続の減益。

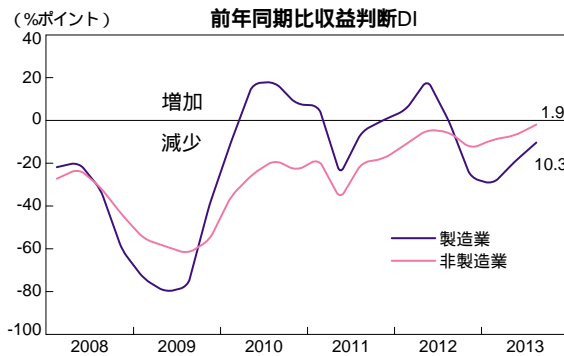
- ・ 金属製品は増収増益。

〔非製造業〕

前年同期比売上額判断DIは8.7〔増加〕。増収は2四半期連続。

前年同期比収益判断DIはマイナス1.9〔減少〕。

- ・ 卸売業と建設業は増収増益。



		前年同期に比べた売上額	
		増加した業種	減少した業種
製造業		金属製品 窯業・土木 木材・木製品	自動車部品 繊維製品 印刷 食料品
		機械器具部品は横ばい	
非製造業		卸売業 建設業 サービス業	飲食業 不動産業 運輸業
		小売業は横ばい	

		前年同期に比べた収益	
		増加した業種	減少した業種
製造業		金属製品	自動車部品 機械器具部品 窯業・土石 繊維製品 印刷 食料品
		木材・木製品は横ばい	
非製造業		卸売業 建設業	小売業 飲食業 不動産業 運輸業 サービス業

販売価格・仕入価格

仕入価格の上昇続く 製造業の価格転嫁進まず

〔全産業〕

販売価格判断DI（販売価格が3か月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）がマイナス1.3〔下落〕となる一方、仕入価格判断DI（仕入価格が3か月前とくらべ「上昇」と答えた企業の割合から「下落」と答えた企業の割合を差し引いた値）は36.9〔上昇〕となった。

〔製造業〕

**販売価格判断DI**はマイナス9.1〔下落〕

**原材料仕入価格判断DI**は34.2〔上昇〕。

- ・ 為替の円安などの影響で原材料価格の上昇が続いているが、価格転嫁は依然として進んでいない。

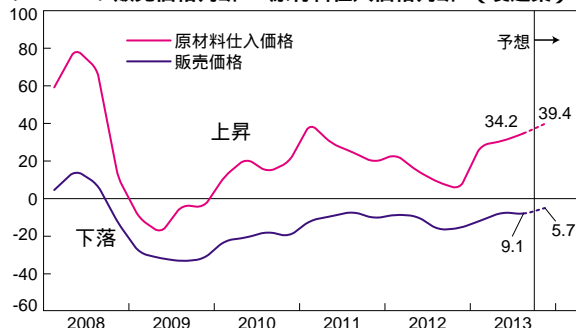
〔非製造業〕

**販売価格判断DI**は4.6〔上昇〕。3四半期連続の上昇。部分的に価格転嫁が進んでいるとみられる。

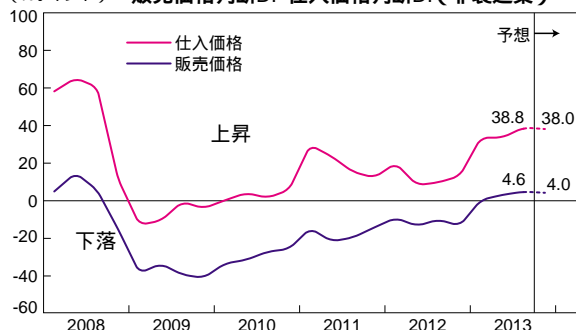
**仕入価格判断DI**は38.8〔上昇〕。

- ・ 飲食業、建設業、運輸業で仕入（食材、建設資材、燃料）価格の上昇傾向が強まっている。

(%ポイント) 販売価格判断DI・原材料仕入価格判断DI(製造業)



(%ポイント) 販売価格判断DI・仕入価格判断DI(非製造業)



資金繰り

「苦しい」資金繰り続く

〔全産業〕

**資金繰り判断DI**（資金繰りが3ヵ月前とくらべ「楽」と答えた企業の割合から「苦しい」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス5.7〔苦しい〕。

**予想資金繰り判断DI**はマイナス7.0〔苦しい〕。

〔製造業〕

**資金繰り判断DI**はマイナス6.2〔苦しい〕。

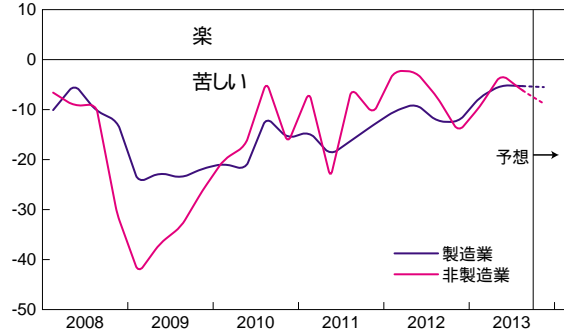
**予想資金繰り判断DI**はマイナス8.8〔苦しい〕。

〔非製造業〕

**資金繰り判断DI**はマイナス5.3〔苦しい〕。

**予想資金繰り判断DI**はマイナス5.5〔苦しい〕。

(%ポイント) 資金繰り判断DI



雇用

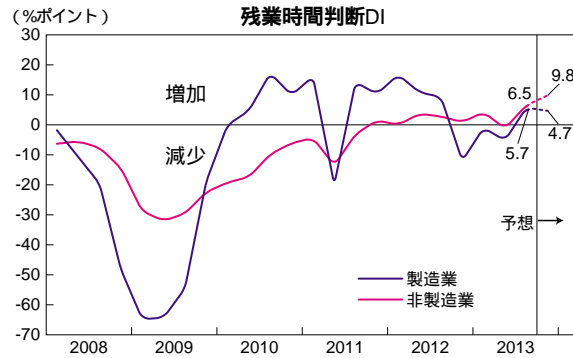
〔全産業〕

**残業時間判断DI**（残業時間が3カ月前とくらべ「増加」と答えた企業の割合から「減少」と答えた企業の割合を差し引いた値）は6.1〔増加〕。

**予想残業時間判断DI**は7.7〔増加〕。

**人手過不足判断DI**（人手が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス16.5〔不足〕となり、人手不足感が広がっている。

**予想人手過不足判断DI**はマイナス20.8〔不足〕となっている。



〔製造業〕

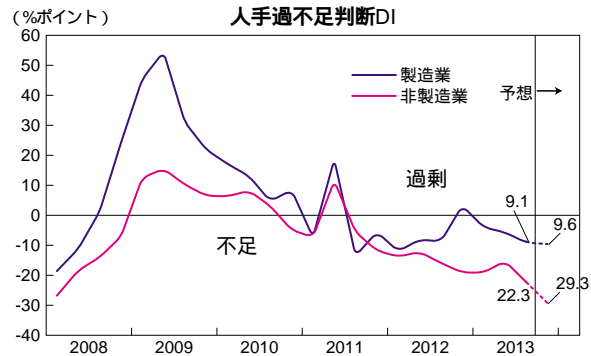
**残業時間判断DI**は5.7〔増加〕。残業時間が増えるのは1年ぶり。

- 自動車部品、機械器具部品、金属製品で増加。

**予想残業時間判断DI**は4.7〔増加〕。

**人手過不足判断DI**はマイナス9.1〔不足〕。

**予想人手過不足判断DI**はマイナス9.6〔不足〕。



		3カ月前と比べた残業時間	
		増加した業種	減少した業種
製造業	自動車部品 機械器具部品 金属製品	窯業・土石 繊維製品 印刷	
	食料品、木材・木製品は横ばい		
非製造業	卸売業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業	小売業 飲食業	

		人手過不足感	
		人手過剰	人手不足
製造業	窯業・土石	自動車部品 機械器具部品 金属製品	
	木材・木製品、繊維製品、印刷、食料品は過不足感なし		
非製造業		卸売業 飲食業 建設業 不動産業 運輸業 サービス業	
	小売業は過不足感なし		

〔非製造業〕

残業時間判断DIは6.5〔増加〕。予想残業時間判断DIは9.8〔増加〕。

人手過不足判断DIはマイナス22.3〔不足〕。予想人手過不足判断DIはマイナス29.3〔不足〕。

設 備

〔設備投資の実施〕	製造業28.0%	非製造業28.2%
〔計画〕	製造業26.5%	非製造業24.8%

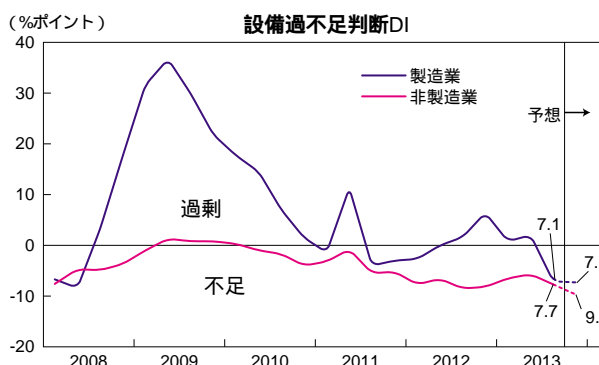
〔全産業〕

設備過不足判断DI（設備が「過剰」と答えた企業の割合から「不足」と答えた企業の割合を差し引いた値）はマイナス7.4〔不足〕となった。

予想設備過不足判断DIはマイナス8.6〔不足〕。

7～9月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は28.1%。

10～12月期に設備投資を計画している企業は25.5%。

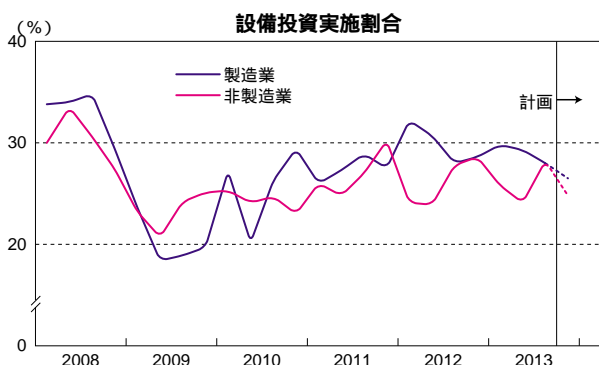


〔製造業〕

設備過不足判断DIはマイナス7.1〔不足〕。1年半ぶりの不足域に。

予想設備過不足判断DIはマイナス7.3〔不足〕。

7～9月期に設備投資（リース・レンタルを含む）を実施した企業は28.0%。



- ・ 内訳としては、機械・設備の新增設が55.0%、機械・設備の更改が31.0%、事務機器17.0%、車両16.0%などとなっている。
- ・ 設備投資の目的としては、老朽化に伴う更新が38.0%、合理化・省力化が35.0%、能力増強が34.0%などとなった。

10～12月期に設備投資を計画している企業は26.5%。



〔非製造業〕

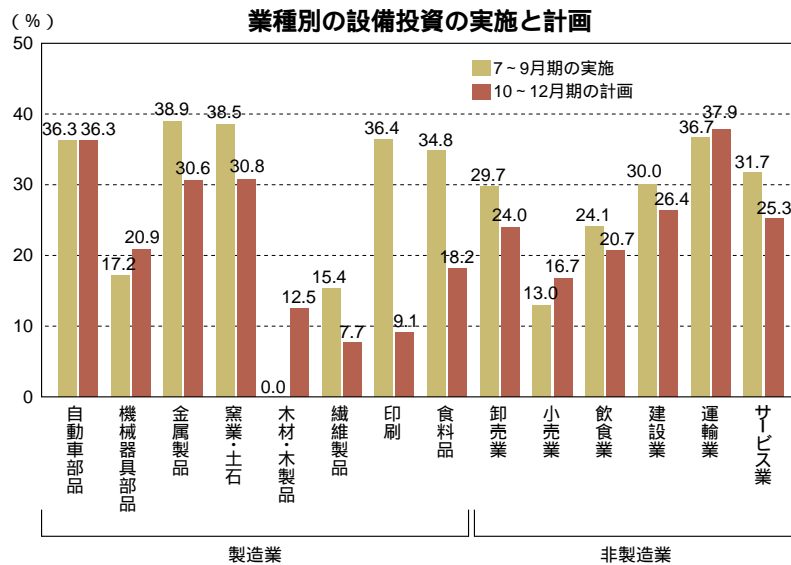
設備過不足判断DIはマイナス7.7〔不足〕。

予想設備過不足判断DIはマイナス9.7〔不足〕。

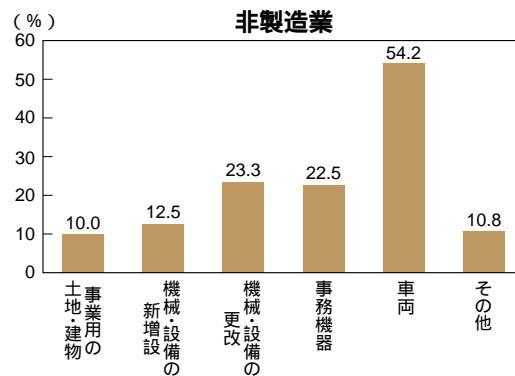
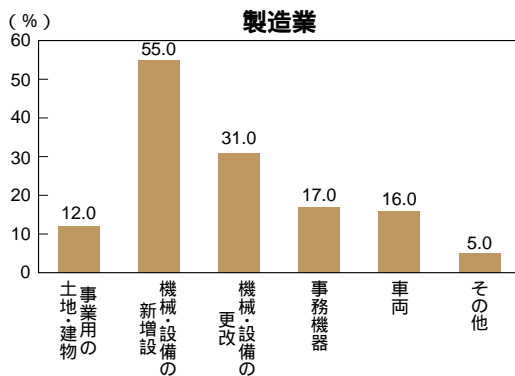
7～9月期に**設備投資（リース・レンタルを含む）を実施**した企業は28.2%。

- ・内訳としては、車両が54.2%、機械・設備の更改が23.3%、事務機器が22.5%、機械・設備の新增設が12.5%などとなっている。
- ・設備投資の目的としては、老朽化に伴う更新が50.8%、販売拡大が16.7%、競争力の維持・強化が14.2%、合理化・省力化が13.3%などとなった。

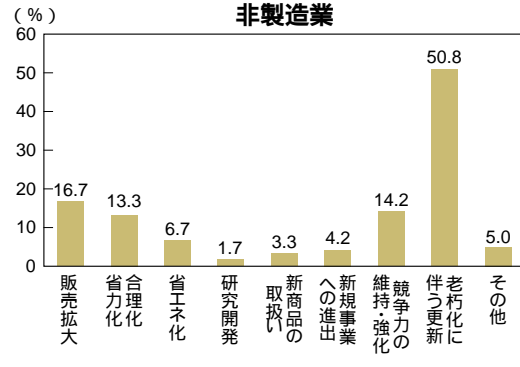
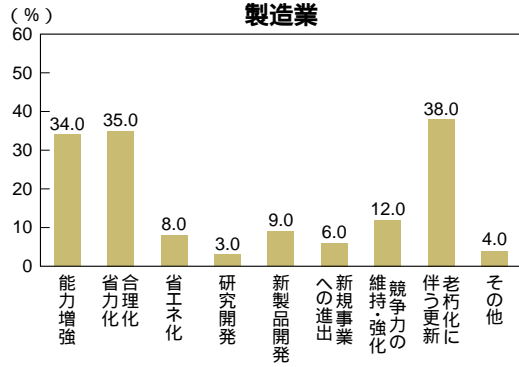
10～12月期に**設備投資を計画**している企業は24.8%。



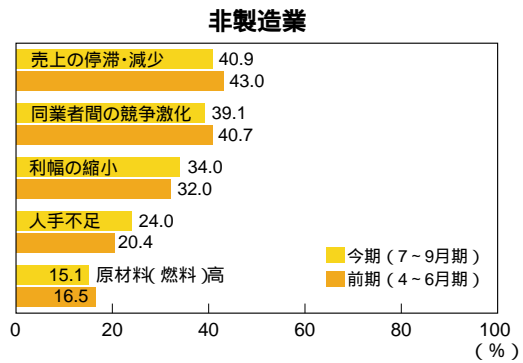
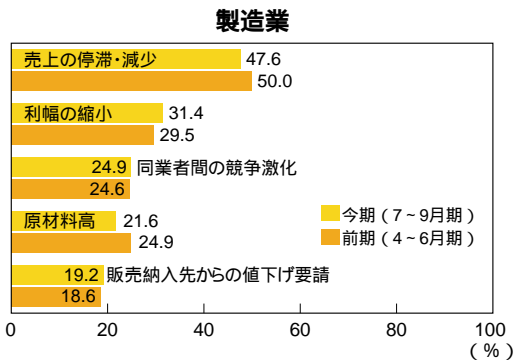
7～9月期の設備投資の内訳



7～9月期の設備投資の主な目的



経営上の問題点



当面の重点経営施策

